

第1回教科担当教員中央会議 議事録

日 時：平成25年10月2日（水） 14：00～16：10

場 所：慶應義塾大学 芝共立キャンパス3号館11階1102会議室

出席者：別記

配布資料：1. 教科担当教員会議名簿（平成25年度版）

2. 平成24・25年度開催状況（教科担当教員会議）

3. 平成24・25年度議事録

3-1 : 有機化学系教科担当教員会議議事録 (H24. 11. 4)

3-2 : 生薬学・天然物化学教科担当教員会議議事録 (H24. 9. 16)

3-3 : 物理化学系教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 30)

3-4 : 分析化学系教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 29)

3-5 : 臨床関連教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 29)

3-6 : 薬理学関連教科担当教員会議議事録 (H24. 8. 30)

3-7 : 薬剤学教科担当教員会議議事録 (H24. 8. 31)

3-8 : ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 28)

3-9 : 衛生薬学教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 1)

3-10 : 日本薬局方教科担当教員会議議事録 (H25. 4. 20)

3-11 : 微生物学教科担当教員会議議事録 (H25. 3. 30)

3-12 : 医薬品情報学教科担当教員会議議事録 (H25. 8. 9)

○出席者の紹介、代表理事の挨拶

まず、出席者から簡単な自己紹介がなされた。次に、追加資料（薬学教育協議会の定款、理念と目的）に基づき代表理事より、本会議開催の経緯と目的の説明があった。

○議題

1. 平成24年度、平成25年度の開催状況・各教科のこれまでの活動についての報告

【有機化学系教科担当教員会議】丸岡 博 委員（福岡大学薬学部）

平成24年11月4日に開催された「第7回有機化学系教科担当教員会議報告書」（資料3-1）に基づき、丸岡委員より報告があった。概要は以下の通り。

昨年度は「6年制薬学教育に於ける薬学研究者養成の問題点ーコアカリ改定に向けての有機系教科担当者からの提言」に関連したアンケート結果の概要について協議し、特別講演も行った。今年度（11月開催予定）は、改定案をふまえ基礎薬学研究所をさらに活性化するにはどうすべきか討議する予定である。

【生薬学・天然物化学教科担当教員会議】木内 文之 委員（慶應義塾大学薬学部）

平成 24 年 9 月 16 日に開催された「平成 24 年度生薬・天然物教科担当教員会議議事録」（資料 3-2）に基づき、木内委員より報告があった。概要は以下の通り。

昨年は、モデル・コアカリキュラムの改定について、増野委員長に講演をしていただいた。今年度は、モデル・コアカリキュラムの改定で漢方が薬理に移ったこともあり、漢方教育を標準化するための、新しい教科書を作ることをテーマに活動している。また、来年度からは会議の名称を「生薬学・天然物化学・漢方薬学教科担当教員会議」とすることも考えている。

【物理化学系教科担当教員会議】【分析化学系教科担当教員会議】

高波 利克 委員（明治薬科大学）

平成 25 年 3 月 30 日に開催された「物理化学系教員会議プログラム」（資料 3-3）に基づき、高波委員より報告があった。概要は以下の通り。

例年は両会議を同日に開催しているが、昨年は別々に開催された。研究成果の発表は、化学系、生物系、物理化学、薬剤など様々な方面で発表する人がいるので、どのように物理化学系としてまとめるか問題となっている。教育については、モデル・コアカリキュラムの変更状況について高波委員が講演した。今年度は、熊本で開催予定。

【臨床関連教科担当教員会議】賀川 義之 委員（静岡県立大学薬学部）

平成 25 年 3 月 29 日に開催された「第 13 回臨床科目担当教員会議プログラムおよび議事録」（資料 3-5）に基づき、賀川委員より報告があった。概要は以下の通り。

第 13 回会議にて「臨床関連教科担当教員会議」と名称を変更することが決まった。最初は、MD の教員が薬学教育の現場で教える内容について協議や情報共有の場であった。その後、6 年制教育になり実務家教員が加わり、年 1 度会議を開いている。薬物治療や臨床教育に関する事例紹介や、モデル・コアカリキュラムの改定についての講演があった。カリキュラムの作成に関しては、他の領域の教員会議と連携が必要なため、上手に連携する必要があると考えている。

【薬理学関連教科担当教員会議】鈴木 勉 委員（星薬科大学）

平成 24 年 8 月 30 日に開催された「平成 24 年度国公立薬理学関連教科担当教員会議議事録」（資料 3-6）に基づき、鈴木委員より報告があった。概要は以下の通り。

日本薬理学会と日本薬学会の薬理系薬学部会と連携しながら行っている。昨年からは薬学会主催の「生体機能と創薬シンポジウム」と本会議を同時開催している。今年度も九州大学にて合同開催した。

昨年度は薬理学実習に関するアンケート調査を行った。結果については、できるだけ多くの方に見てもらい今後実習のあり方につなげられれば良いと考えている。今年度は、モデル・コアカリキュラムについての講演があり、議論を行った。

【薬剤学教科担当教員会議】内田 享弘 委員（武庫川女子大学）

平成 24 年 8 月 31 日に開催された「平成 24 年度薬剤学教科担当教員会議議事録」（資料 3-7）に基づき、内田委員より報告があった。概要は以下の通り。

会議はこれまで 37 回開催されており、従来から薬剤学教育の教育研究の水準の向上と教科の交流を目的に開催している。主に、薬剤学関連の教育に関して（モデル・コアカリキュラムや国家試験について）議論している。また、昨年度は「薬剤学の医療薬学への貢献」をテーマにした特別講演や、薬剤師国家試験についての総評、モデル・コアカリキュラムの改定についての講演、6 年制薬学教育の第三者評価の講演、実務実習についての講演があった。

今年度は富山で開催し、国家試験に関しては複合問題に絞って説明と質疑があった。また、モデル・コアカリキュラム改定についての講演と議論がなされた。特別講演や、教育講演があった。最後に統括として、教員のスキルアップのため、教員のワークショップが必要ではないかとの意見が出された。

【ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議】

野呂瀬 崇彦 委員（北海道薬科大学）

平成 25 年 3 月 28 日に開催された「第 7 回ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議議事録」（資料 3-8）に基づき、野呂瀬委員より報告があった。概要は以下の通り。

毎年薬学会の中で、1 時間弱で講演会や各大学の教育実践報告などを行ってきた。実務実習においての学生のコミュニケーション能力を現場の先生がどのように評価しているか等の報告を行った。また、各教科担当教員に対して、各大学の科目名、内容、人数、方略で行っているかアンケート調査を行った。また、OSCE についてもアンケート調査をし、各担当教員にフィードバックを行った。

昨年度はモデル・コアカリキュラム改定をテーマとして、ヒューマニティ・コミュニケーション領域についての講演があった。今年度は 7 月 20 日にワークショップ（参加者 46 名）を実施しモデル・コアカリキュラム改定の意見、疑問などを共有した。次回は 3 月の薬学会で行う予定である。

【衛生薬学教科担当教員会議】永瀬 久光 委員（岐阜薬科大学）

平成 25 年 3 月 1 日に開催された「第 7 回衛生薬学担当教員会議議事録」（資料 3-9）に基づき、永瀬委員より報告があった。概要は以下の通り。

毎年 2 月下旬から 3 月上旬に開催している。参加者は 92 名程度。モデル・コアカリキュラム改定について講演があった（広島大学大学院太田教授）。今年度は 2/28 開催予定で、次回もモデル・コアカリキュラム改訂について同教授に講演していただく予定。

衛生試験法の利用状況に関するアンケート調査を行い、結果報告を行った。現在、使いやすく、実習のスタンダードとなるようなテキストを作成している。また、特別講演として企業研究者の講演があった。

【日本薬局方教科担当教員会議】萩中 淳 委員（武庫川女子大学）

平成 25 年 4 月 20 日に開催された「平成 25 年度日本薬局方教科担当教員会議議事録」（資料 3-10）に基づき、萩中委員より報告があった。概要は以下の通り。

改正日本薬局方と国家試験出題内容について、各教科の先生方に講演してもらった。また、「第 16 改正日本薬局方第一追補及び最近の理化学試験法の動向」というタイトルで特別講演があった。本会議は、平成 22 年度から活動し始め、今年度で 4 回目の開催となる。来年度は、慶應義塾大学で開催予定である。

モデル・コアカリキュラムの改訂案が 4 月に出た時、「日本薬局方の意義と内容を説明できる。」という到達目標が一時削除されたがその後回復した。担当教員としては、教育として日本薬局方を教えていきたいと考えている。

【微生物学教科担当教員会議】関水 和久 委員（東京大学）

平成 25 年 3 月 30 日に開催された「平成 24 年度微生物学教科担当教員会議議事録」（資料 3-11）に基づき、関水委員より報告があった。概要は以下の通り。

毎年、日本薬学会の年会時に集まり開催される。昨年度は 66 名出席した。来年度は熊本大学で開催予定である。

毎年ファーマバイオフォーラムにおいて、学生（50-70 人、うち学部生は 10 人程）が発表を行っている。他には、微生物シンポジウムを開催している。薬学部のカリキュラムとしては、感染症に対する臨床薬学が重要になってきているため、どのように対応するかが今後の課題である。

また、モデル・コアカリキュラム改定についての説明や 6 年制の薬学生に対する感染症専門教育についての講演があった。

【医薬品情報学教科担当教員会議】山田 安彦 委員（東京薬科大学）

平成 25 年 8 月 9 日に開催された「平成 25 年度（第 3 回）医薬品情報学教科担当教員会議議事録」（資料 3-12）に基づき、山田委員より報告があった。概要は以下の通り。

薬学教育協議会に依頼し、平成 23 年度、平成 24 年度の文部科学省の委託事業に公募、採用され、臨床薬学教科（医薬品情報学）の教材開発を行った。

今年度は、本教材開発についての報告、「医療人育成における医薬品情報学の役割」というテーマでの特別講演、モデル・コアカリキュラム改訂についての報告、「医薬品情報」に関する新国家試験問題についての意見交換を行った。

【臨床化学関連教科担当教員会議】佐治 英郎 委員（京都大学）

佐治委員より現在の状況と、薬学教育における臨床検査技師関連の教育をどのように行うか、モデル・コアカリキュラムを含めて議論しているとの報告があった。

【病態検査関連教科検討委員会】服部 豊 委員（慶應義塾大学）

本委員会については、しばらく活動しておらず、今回代表者に出席してもらうにあたり、急遽会場大学の服部委員に依頼したとの説明があった。

- ▶ 臨床関連教科担当教員会議、臨床化学関連教科担当教員会議、病態検査関連教科検討委員会の3つについて、棲み分けをはっきりした方がよいとの意見があった。
- ▶ 議論の結果、臨床化学関連教科担当教員会議と、病態検査関連教科検討委員会をひとつの委員会とすることが決まった。

【放射薬学教科担当教員会議】佐治 英郎 委員（京都大学）

佐治委員より現在の状況の報告があった。概要は以下の通り。

薬学教育の中で放射線についてどのように教えていくか、モデル・コアカリキュラムとの関連も含めて議論した。放射線に関する法律が変わるたびに、本会議で周知を徹底するようにしている。また、実習を行う特殊施設を持たない大学はどのように実習を行っているか等の報告と情報の共有を行った。最近、福島で事故で薬剤師が対応に苦慮したので、このような教育について議論を行っている。

【実務実習教科担当教員会議】木津 純子 委員（慶應義塾大学）

木津委員より報告があった。概要は以下の通り。

初年度は活動したが、次年度に実務家教員連絡会議が立ち上がった。400人程が参加している。実務家教員連絡会議では、今夏全員にアンケート調査を行った。2008年にも同様の調査を行い、継続的に活動している。今年度から、臨床系教員連絡会議と名称を変更した。医療薬学会と薬学会の日に年2回活動している。そちらが軌道に乗ったので、今後は実務実習教科担当教員会議の活動も再開したい。

実務実習報告会の際、倫理問題はどのようになっているかとのアンケート調査のまとめをし、報告と議論を行った。今秋は実務経験をどのように継続していくか、キャリアアップはどのようにするかなどが課題である。更新制度を作った方がよいのではないかとの意見も出ている。来年3月熊本で開催予定の会議では、モデル・コアカリキュラムや第三者評価について議論する予定である。

【薬学と社会教科担当教員会議】中村 武夫 委員（近畿大学）

中村委員より報告があった。概要は以下の通り。

「薬学と社会」の中身を明白にするために、各大学が取り組んでいる事例の紹介を行った（2007年～2009年頃）。その後、モデル・コアカリキュラム改定に伴い、昨年度は松木先生と、日本大学亀井先生から経緯等の説明があった。今年度以降は、モデル・コアカリキュラムの改訂に準じて、各大学でどのように教育していくか、中身について議論していきたい。

2. 教科担当教員会議の今後の在り方について

各教科担当教員会議の開催方法について意見が出された。

また、薬物治療について、関連する科目の教員会議に世話人が出席してはどうか、可能であれば薬物治療に関連する教員会議を作ってはどうか等の意見が出され、今後の検討課題となった。

薬学教員名簿を代表者に配付することを決定した。

各教科担当教員会議の委員長については、変更になった際、前任者が薬学教育協議会に申し出ることを確認した。また、現在は世話人や代表者など名称が統一されていないので、今後は「委員長」に統一し、薬学教育協議会が「〇〇年度の委員長に任命する」旨、委嘱か依頼するかたちをとる方向で、今後検討することとなった。

最後に望月代表理事が本会議の委員長に鈴木 勉 委員、副委員長に山田 安彦 委員を推薦し、全員異議なく承認された。今後、本会議の議論結果に基づいて薬学教育カリキュラム評価検討委員会を立ち上げる方向を確認した。また、一年に一度は本会議を開催することを申し合わせ、散会した。

以上

別記 第1回教科担当教員中央会議 出席者名簿

教科担当教員会議	出席者氏名 (敬称略)	大学名
有機化学系教科担当教員会議	丸岡 博	福岡大学薬学部
生薬学・天然物化学教科担当教員会議	木内 文之	慶應義塾大学薬学部
物理化学系教科担当教員会議	高波 利克	明治薬科大学
分析化学系教科担当教員会議		
臨床関連教科担当教員会議	賀川 義之	静岡県立大学薬学部
臨床化学関連教科担当教員会議	佐治 英郎	京都大学薬学研究科
放射薬学教科担当教員会議		
薬理学関連教科担当教員会議	鈴木 勉	星薬科大学
薬剤学教科担当教員会議	内田 享弘	武庫川女子大学薬学部
実務実習教科担当教員会議	木津 純子	慶應義塾大学薬学部
ヒューマニティ・コミュニケーション教科担当教員会議	野呂瀬 崇彦	北海道薬科大学
薬学と社会教科担当教員会議	中村 武夫	近畿大学薬学部
病態検査関連教科検討委員会	服部 豊	慶應義塾大学薬学部
衛生薬学教科担当教員会議	永瀬 久光	岐阜薬科大学
日本薬局方教科担当教員会議	萩中 淳	武庫川女子大学薬学部
微生物学教科担当教員会議	関水 和久	東京大学大学院薬学系研究科
医薬品情報学教科担当教員会議	山田 安彦	東京薬科大学薬学部
一般社団法人 薬学教育協議会	須田 晃治	
	増野 匡彦	
	望月 正隆	